

保育理念

子どもの状況や発達過程を踏まえ、人との関わりや、環境との関わりを通して養護及び教育を一体的に行い、生きる力の基礎を培う。

保育方針

- ・子どもの情緒の安定を図り、健やかな成長と、その活動が豊かに展開されるよう援助する。
- ・子どもの健康、安全及び食育について、健全な心身の発達を図る。
- ・保護者と園とが緊密なる連携をとり、子どもの育ちに最善の利益を考慮しながら保護者への子育て支援を行う。

保育目標

- ・心身ともに健康な子
- ・思いやりのある子
- ・感性豊かな子

《評価について》

評価するにあたっては、以下の基準で行います。

A: かなりできている B: できている C: あまりできていない D: ほとんどできていない

1. 保育理念・保育方針

	設 問	A	B	C	D
001	園の保育理念や保育方針・全体計画を全職員に周知している		○		
002	園の保育方針をもとにした全体的な計画が作られている	○			
003	定期的に保育方針や保育間を確認できるような機会を作っている		○		
004	全体的な計画を基に、行事や園外保育を計画している	○			

2. 保育計画・保育実践と振り返り

	設 問	A	B	C	D
005	全体的な計画を基に、各歳児で目標を立案し、計画的に保育を行っている	○			
006	子どもの発達を理解し、見通しを持った保育を工夫している	○			
007	配慮を必要とする子への対応は、職員間で共通意識を持ち、その子に応じた対応をしている		○		
008	保育の振り返りを定期的に行い、今後活かせるようにする	○			

3. 環境・安全

	設 問	A	B	C	D
009	一人一人が安心して過ごせる環境を保証している		<input type="radio"/>		
010	園の方針を基にした環境構成が整えられている	<input type="radio"/>			
011	職員一人一人が健康・安全に対する認識を共有している		<input type="radio"/>		
012	職員が危機管理意識を常に持ち、緊急時に対応できるようにしている	<input type="radio"/>			

4. 職員構成・研修

	設 問	A	B	C	D
013	職員の責務を明確にし、連携しながら円滑に保育が進められるようにする	<input type="radio"/>			
014	園外研修・モンテッソーリ実践研修会に積極的に参加する	<input type="radio"/>			
015	保育士以外の栄養士・看護師も研修に参加し、自己研鑽に努める	<input type="radio"/>			

5. 食育

	設 問	A	B	C	D
013	職員が食育の重要性を理解し、季節や年齢に合わせて食育計画を立てている	<input type="radio"/>			
014	栄養士・保育士が連携し、食育を積極的に進めている	<input type="radio"/>			
015	食材の安全に配慮したうえで、様々な食材を味わえるようにしている	<input type="radio"/>			
016	離乳食やアレルギー除去食などの特別食に配慮している	<input type="radio"/>			

6. 保護者支援・子育て支援

	設 問	A	B	C	D
017	保護者に対し、園の保育内容や子どもの姿がわかるような発言をしている		<input type="radio"/>		
018	保護者の状況、個人情報の漏洩に気を付けている	<input type="radio"/>			
019	保護者の子育てを支え、子育ての喜びを共感するように心がけている	<input type="radio"/>			
020	地域で子育てをしている親子に配慮し、園児との交流を積極的に進めている			<input type="radio"/>	

7. 小学校や地域社会との連携

	設 問	A	B	C	D
021	定期的に地域の他の保育園や幼稚園・小学校との交流を行っている			○	
022	地域との交流を積極的に行っている			○	
023	ボランティアや実習生を受け入れる意義を理解し、受け入れる体制がある		○		

総括（できていることなど）

モンテッソーリ教育法を基に人的・物的環境を整え、自立・自律に向けて自らが成長する姿を援助することを大切にしている。配慮の必要な子への対応については、担任だけに任せず、全職員間で共有し現状を把握するようにしている。

遊具や門扉、外階段など毎月安全点検を行い、改善が必要な場合は直ちに実施する。

モンテッソーリ教育の研修をはじめキャリアパスのための研修会にも積極的に参加している。

年度当初の会議で、自らの職務を確認し、業務分担・行事係などについても確認している。

アレルギー児への誤食を防ぐため栄養士と保育士が確認を怠らず声を掛け合いながら提供している。

課題

配慮を必要とする子が年々増加する傾向にあり、国で定められている保育士の人数では対応が難しくなってきたと感じる。できうる限り職員を増員し、子どもたちへの対応の充実、および職員一人一人の負担軽減に努めたい。

保護者とのコミュニケーションを緊密に取り合い、子どもたちのよりよい育ちのために、協力していきたい。子育て中の不安や悩みを相談していただけるよう、笑顔で応対すること、また、親身になって保育にあたることで、信頼関係を構築していくよう努めたい。

子どもたちの興味の広がりを意識して、タブレット端末による画像の検索など、時代に沿った保育の提供を行っていきたい。

地域の方々との交流も、園外へ散歩にでたり、七五三のお参りに行く際にすれ違うの方々との触れ合いにとどまっておらず、十分に交流ができているとはいえない。